

11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項

[1] 基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項

(1) 個別事業等に関連した実践的・試行的活動の内容・結果等

① まちなか型公共サービスの展開

これまで、平成13年にオープンした市民センターでの実証実験の成果を活かしながら、平成16年3月の「長岡市中心市街地の構造改革に関する提言」を踏まえ、「まちなか型公共サービス」を展開し、市役所機能の分散配置と併せたまちなかの都市機能の更新と再集積に取り組んできた。

これらの施設において、市民活動やイベント、学習の場、文化事業などが幅広く展開され、その結果、中心市街地への来街者が多世代にわたり増加するとともに、「ハレの場」、「顔」としての機能が定着してきた。

こうしたことから、長岡の中心市街地に人々が集まる理由・目的・価値観は、従来の中心商業地が提供する物やサービスとは異なり、アオーレ長岡やまちなかキャンパス長岡など、公共施設を中心に展開される様々な情報を含めたサービスやイベント＝「まちなか型公共サービス」に転換したといえる。これは、まさに中心市街地の質的な転換を意味しており、商業の衰退を原因とする中心市街地の疲弊に苦しむ地方都市の処方箋として、新たなモデルを提示したものと見える。

② 合併地域との連携

アオーレ長岡では、休日を中心に様々なイベントが開催され、「アオーレに来れば何かやっている」という意識が定着し始め、中心市街地に来街する新たなきっかけが生まれた。

こうした中で、中心市街地において、三島地域の「竹あかり」や与板地域の「中川清兵衛サッポロビールフェスタ」など合併地域の特色あるイベントを実施することで、地域において本イベントの来場者数が増加するなど、改めて中心市街地の情報発信力の効果を確認することができた。

その結果、中心市街地が、合併地域のイベント等に利用される機会が増えてきており、長岡広域市民「ハレ」の場として、また、“新しい長岡の「顔」”として定着し始めている。

③ 市民協働

市役所機能のまちなか回帰に関する一連の整備は、中心市街地を「自分の（居）場所」として捉える先導的な役割を果たしてきたといえる。特段のお金を使わなくても自由に過ごすことのできる空間が中心市街地にあることで、多くの市民に利用されることとなり、中心市街地の再生につながっているものと考えられる。

また、市民と行政がともにまちを作り上げるというコンセプトのもと、アオーレ長岡において昨年一年間に開催された数多くのイベントのうち約7割は、市民が企画を持ち込み実現したものであり、アオーレ長岡が市民活動、市民協働の拠点として定着してきていることが窺える。

[2] 都市計画との調和等

(1) 基本構想、都市計画、市町村マスタープラン、その法令に基づく種々の計画との整合性について

①長岡市総合計画

平成19年3月に策定した「長岡市総合計画基本構想」(平成18～27年度)において、本市が目指す将来のまちの姿(基本理念)の一つとして「活気とにぎわいがあり、魅力ある文化と産業を創造するまち」を掲げている。さらに、基本構想の実現に向けた「前期基本計画」(平成18～22年度)の中で、「長岡の顔となる中心市街地の再生」及び「中心商店街の再生」を基本施策として位置付けており、JR長岡駅周辺の中心市街地について、改正中心市街地活性化法に基づく新たな中心市街地活性化基本計画を策定し、さまざまな取組みを実施していく旨を明記している。

②長岡市都市計画マスタープラン

本計画の計画区域である中心市街地及び都心地区の位置付けを都市計画マスタープランでも明確に記載するとともに、本計画に位置付けている市街地整備事業等についても記載している。

[3] その他

○環境面への配慮

第1期計画において整備したアオーレ長岡は、環境の保全に配慮したさまざまな取組みを行っており、国土交通省の「省CO₂推進モデル事業」に自治体として初めて認定された。

施設には、太陽光パネルや天然ガスでの発電状況、雨水の利用状況、省CO₂削減量などの情報をリアルタイムに“見える化”する機器を設置。環境に対する市民意識の向上を喚起する仕掛けも導入している。

第2期計画の各種事業の実施にあたっては環境面に配慮した取組みを進めていく。

<アオーレ長岡における取組み>

- ・ アリーナ屋根を「屋上緑化」し、地球温暖化の防止と環境意識の向上を目指す。
- ・ 太陽光度に合わせてナカドマの屋根のパネル部を開けることで発電効率を上げ、併せてナカドマに通風する、ナカドマ屋根に「太陽光発電・換気システム」を導入。
- ・ 雨水を集め、ろ過し繰り返し使う「中水循環型融雪システム」を導入し、トイレの洗浄水や冬季の屋根融雪水、夏季における施設冷却のための散水用として利用する。
- ・ 国内最大の天然ガス産出地という本市の特性を生かし、燃焼時の二酸化炭素や窒素酸化物の排出量が少ない、環境特性に優れた地場産の天然ガスをエネルギー源とする「天然ガスコージェネレーションシステム(※)」を導入。

※発電時に発生する排熱を電力と合わせて冷暖房や給湯などに利用する仕組み。省エネルギー性や環境保全性に優れる。